

平成17年度第5回定期研究会 議事録

日時 : 平成17年12月14日(水) 15:30~17:00

場所 : 愛知工業大学 本山キャンパス 3階 大学院講義室

出席者: 青木(愛工大), 穉山(パルコ科研), 安藤(富士エンジ), 泉野(玉野総合C), 大岩(JIP), 小川(名古屋道路エンジ), 山田, 葛, 金(名大), 櫛田(帝国建設C), 小澤(建設技術研究所), 事口(大同工大), 高橋(日車), 播金, 長屋, 江間, 古田土(トピー), 河野(中日本道路), 澤村(美濃市)

19名(敬称略)

1. 定期研究会(深田研究会担当幹事)

総合タイトル 「最新の Al-Mg 溶射技術」

講演題目 : 「Al-Mg プラズマ溶射による防錆技術」

講演者 株式会社 フジエンジニアリング 枚本正信

講演題目 : 「橋梁溶射工事のコストダウン」

講演者 山田金属防蝕 株式会社 山田謙一

講演題目 : 「九州電力における防食技術について」

講演者 九州電力 株式会社 総合研究所 環境・化学グループ 末吉充拓

講演内容

鋼橋の維持管理においてもっとも重要な問題点の一つが腐食である。現状では塗装による防錆が腐食対策の主流であり、また、多くの橋梁が塗り替え時期を迎えている。しかしながら、塗り替え時の下地処理や施工技術の問題、足場の設備費等がかかるといった問題点も残っている。

塗り替えをする際に十分なケレンを行った場合は適度な防錆効果が見られるが、十分なケレンが行われなかった場合、環境によっては腐食の進行が進み塗り替えのスパンが短くなる場合もある。しかしながら、ケレンは規格があるものの、その管理が余り徹底されていないのが現状である。

Al-Mg プラズマワイヤー溶射工法は従来の金属溶射と比べ、環境にやさしく作業性も優れている。また、最近では技術の向上により、自動化設備の向上によりコストの縮減、十分なプラストを行わなくとも適度な付着を行うことが可能となってきている。耐用年数が通常の塗装や他の金属溶射と比べて長く100年以上の耐用年数を有し、LCCの面から見ても他の工法より優れている。

講演は金属溶射のみでなく、鋼橋の防食、防錆の現状について限られた時間内ではあったものの内容の濃い講演をしていただいた。

以上//